

実践ノート

看図アプローチを取り入れた保育士養成のための授業研究(Ⅱ) —メルヘンスケープ法を活用した書く力を育てる「基礎演習」授業—

渡辺 聡¹⁾

WATANABE Satosii

キーワード：看図作文・看図アプローチ・保育士養成・基礎演習・協同学習

Ⅰ. はじめに

「基礎演習」の授業を担当して感じることは、学生の「書く力」に大きな個人差があることである。「基礎演習」の授業では、授業者が学生の取り組みの様子や内容理解を評価するために、1時間ごとに必ず、何らかのブリーフノート・ふりかえりメモ等の記述を求めている。けれども、提出された記述物には、主述の不一致があったり、授業者の質問に対する回答が的確に表現されていないものもあったりする。「基礎演習」履修中の学生に尋ねたところ、16名の学生のうち14名が、書くことに対して否定的な反応を示した。学生に文章を書くことの印象を聞いてみると、「書けない!」「書くことがない」「どのように書いたらいいかわからない」「書くことがおもしろくない!」という内容の言葉が返ってきた。

第1報の授業(渡辺2022, 印刷中)は、このような書くことに対する否定的な反応を払拭するため実施した。本研究では、第1報(第11回目授業)に続く、第12回・第13回授業について報告する。

Ⅱ. 問題と目的

Ⅱ-1 書くことへの苦手意識の克服

山田(2013, pp.118-125)は、初年次教育において重視される項目に関して、日米比較や日本の調査時期(2001年と2007年)による変化に

ついて報告している。報告には、初年次教育で取り上げる内容として、「レポート・論文の書き方など文章作法、論文用思考力や問題発見・解決能力、プレゼンテーションやディスカッション能力、読解・文献講読の方法」などを挙げている。これらの項目は、大学での学修を充実させるために、必要不可欠な項目である。

本研究で学習者となるのは、幼稚園教諭や保育教諭および保育士(以後、保育者と記述)を目指す学生である。学生たちは他の様々な授業でも、記録をとったり保育計画・授業の指導案を作成したり、保育日誌や個別の支援計画・指導計画を書くトレーニングを受ける。それらの経験は、大学卒業後に保育者として子どもたちの前に立った際、大いに役立つはずである。けれども、大部分の学生は、書いたり、文章を考えたり、その中で問題を解決していくこと、そしてそれらをまわりの人に説明していくことには、否定的もしくは苦手な感情をもっている。したがって、初年次教育においては、特に「書くこと」に関する学びをより良いもの・苦にならないものにしていくことが肝要である。

また、学生たちは単に大学で履修すべき単位を取得すれば良いというわけではない。大切なことは、保育者として子どもの心や行動をよく見ることができ、適切に子ども理解ができる力を身につけることである。適切な子ども理解ができてこそ、

1) 札幌大学女子短期大学部こども学科

より良い関わり方ができるようになり、またより良い保育方法を見出していくことができる。現場で起る様々な問題を解決できる力の育成には、様々な視点から物事を考えたり、まとめたりする力が大きく関わっているといえる。

「書けない!」「書くことがない!」「どのように書いたらいいか分からない!」「おもしろくない!」といった感情を克服すること。かつ、創作文を書くことを通して保育者としての資質の向上に寄与すること。この2点が本研究の目的である。

Ⅱ-2 看図アプローチを活用した子ども理解

子どもを理解するためには、子どもを様々な角度からしっかり見るという、柔軟な態度が大切である。言い方を換えると、全体的・俯瞰的な視点で見取りをすること、そして部分的・個別的な視点から見取りができるようになることが大切になる。また、変化する子どもの様子に合わせた対応も必要になる。このような力をつけるには、看図アプローチが有効である。看図アプローチは、絵図や写真といったビジュアルテキストを読み解き、思考力・判断力・表現力をも育成する教授法である。看図アプローチの授業では、ビジュアルテキスト情報処理の基本である「変換」「要素関連づけ」「外挿」および「ものこと原理」等を活用することで、丁寧かつ多様な読解が可能となる。三森(2007, pp.31-35)は、子どもに「絵の分析」と「テキストの分析と解釈」をさせることにより、8つの能力を子どもから引き出すことができると述べている(表1)。

ここで述べられている8つの項目は、看図作文および看図アプローチの研究結果と合致しているところが多い(鹿内 2003, 鹿内他 2007a, 2007b, 2007c, 2008a, 2008b, 2008c, 2009a, 2009b, 2009c, 2010a, 2010b, 2010c, 2014, 2015)。看図アプローチのルーツは「看図作文」にある。看図作文は「書けない!」「書くことがない!」「どのように書いたらいいか分からない!」「おもしろくない!」といった感情を克服し、書くことに対する動機づけを高め「書く力」を育てる指導法である。書くことに興味・関心をもたせながら、

三森が指摘するように、絵本や絵図を用いて情報分析力も育てることが期待できる。したがって、看図作文および看図アプローチによる指導は、保育者として必要な実務能力の育成にも貢献すると考える。

表1 身につけることができる能力

- ① 早期に開始するほど優れた情報分析能力を獲得する
- ② 鋭い観察力と豊かな感受性が育つ
- ③ テキストの読解能力
- ④ テキストを読むための指標を使いこなせる
- ⑤ 論証力が育つ
- ⑥ 討論・議論の力が育つ
- ⑦ 自他の区別と自己肯定、他人の意見を尊重する気持ちが育つ
- ⑧ 論証文が書けるようになる

Ⅲ. 授業の実際

「基礎演習Ⅱ」は、後期(秋学期)に開講されている。前期(春学期)には、「基礎演習Ⅰ」が初年次教育に該当する科目として設定されている。「基礎演習Ⅰ」では、書くことに対する肯定的な態度の育成に関する指導は、十分には行われていない。レポートや論文等をどのように書いていけばよいかという、形式的な技術の習得に特化された指導に重点が置かれているものだった。けれども、「基礎演習Ⅱ」では、指導内容に以下のような内容が予定されている(表2)。

表2 「基礎演習Ⅱ」授業計画の骨子

- ・心の健康①～自分理解とストレスマネジメントに関連する実践演習
- ・心の健康②～対人関係や集団との関係づくりに関連する実践演習
- ・心の健康③～自己理解に関するコンセンサス形成のための実践演習
- ・表現力向上①～プレゼンテーションに関連する実践演習
- ・表現力向上②～基礎演習Ⅱの集大成(自己理解と創作の開発・実践演習)

学生は入学後半年が経ち、大学生としてより高いレベルの学究能力を要求されていく。したがって、表2の「表現力向上②」で計画したような、書くことへの肯定的な態度の育成を含めた総合的な実践演習が必要になる。

本授業では、鹿内ら（2009c, 2010a）が看図作文授業用に開発した「メルヘンスケープ法」を活用する。基本的な授業進行は鹿内ら（2009c, 2010a）の手順にならい、筆者がアレンジを加えて行った。

III-1 授業者・学習者・実施時期・倫理的配慮

授業者は筆者渡辺である。「基礎演習II」には他2名の担当教員がいるが、筆者が主に担当している。今回2名の教員には授業に参加・協力してもらった。

学習者はA短期大学の1年生、16名である。幼稚園教諭や保育教諭および保育士を目指す学生たちである。

授業は、全15回中の第11～13回（90分×3コマ）を1ユニットとして行った。本稿では2021年12月16日と23日に実施した第12・13回目授業について報告する。第11回目授業は渡辺（2022, 印刷中）で報告がなされているため、本稿での紹介は割愛する。

学習者たちからは事前に、授業で産出された資料の活用・公開について書面にて承諾の可否を得ている。また、第11回目授業も含め3回とも参加できなかった学習者については時間外で補修を実施し資料を収集した。

III-2 第12回目授業

今回活用する「メルヘンスケープ法」は鹿内らが開発した看図作文授業レパートリーのひとつで、既に詳細な報告がなされている（鹿内他2009c, 2010a）。その中で鹿内らは、学校の行事作文が子どもたちにとって楽しいものでないことに言及し、「楽しく書ける行事作文の提案」として「メルヘンスケープ法」を提案している。本授業はクリスマス時期に実施した。前述したように、学習者は保育者を目指す学生である。そのためこの授業は、次のようなことも期待して行った。

- 学習者自身がクリスマスという楽しい雰囲気を感じ、演出できるようにする。
- 将来、実際の保育現場で活用したり、書かれた物語を子どもたちに読み聞かせたりする。

学習者には授業冒頭で、就職してから必ず必要になる、文章作成能力、同僚との好ましい人間関係づくりについて、本授業が有効であることも伝えている。なお、鹿内ら（2009c, 2010a）の実践では、授業は1日のうちに行われている。本授業では、2週に渡ってそれぞれ創作作文を書かせていく。これは、授業を2回に分けて行っても「書くことへの肯定的態度」を維持し高めることができるのかを検証するためである。同時に、「看図作文」「看図アプローチ」を活用した授業の動機づけの持続性を確かめるためでもある。授業での教示手順（表3）に添って、第12回目の授業の様子を以下に紹介していく。

表3 第12回目授業の流れ



【ステップ1】スケープボックスの作成



スライド1

してもらおう。このとき、「箇条書きでも良いし文章で書いても良い」と言い添えている。学習者が「心の風景」（自分の思い）を素直に表現できるよう配慮した。

ワークシート上段への記入が済んだら、その内容をもとにグループ内共有していく。グループ内共有する際、ワークシート下段にグループメンバーの考えで「いいなー」と思ったことを書いてもらうよう指示した。この指示は、他者の考えを共感的に聞いたり、賞賛を与えたりすることにつ

ながる。また、自分の作品を振り返って見直し、作品に広がりや発展をもたらすと考え設定した。なお、学習者たちは第11回目授業で協同学習を経験しており、どのようなことをメモ書きにしていけばよいか、また、どのように話し合っていけばよいか知っている。このため今回の指示においても、迷い無くグループワークに取り組むことができていた。その学習者の記述内容を以下に紹介する。なお太字は筆者によるものである（表4）。

表4 自分の「心の風景」とメンバーの「いいなー」と思ったところ

グループ	学生 No.	自分の「心の風景」メモ	友達の「いいなー」と思ったところ
1	A	深い森の奥の家/男の子の家（一人暮らし）/サンタが家を見つけプレゼント/友達がいないので友達（雪だるま・動物）をプレゼント/喜ぶ男の子	<ul style="list-style-type: none"> ・誰も泊まっていないという発想 ・動物が雪だるまを作ったという発想 ・ツリーに飾りが書いてあるのがよい ・物語の終りが素敵
	B	森の中の誰も住んでいないお家/誰でも好きなときに泊まれるお家/森の中の動物たちや旅人が泊まりに来る	<ul style="list-style-type: none"> ・動物たちが作った雪だるまが可愛い ・「サンタが男の子のために雪だるまを置いた、温かいストーリー ・トナカイとサンタさんをつくり夜空に（貼り）付けていた ・ツリーを飾り付けしていた ・クリスマスという明確で想像しやすいストーリー
	C	クリスマスイブに星の子たちがクリスマス準備/もみの木に飾り付け/親子の雪だるまを作り/帽子とマフラーのプレゼント/準備終了で夜に/お母さんお父さんに呼ばれ美味しい料理を、暖かい家で食べる/おじいちゃん・おばあちゃんも来た/みんなでメリークリスマス	<ul style="list-style-type: none"> ・動物たちが誰でも泊まれるお家 ・色々な動物がおじいちゃん・おばあちゃんの庭で遊んでいる ・雪だるまは、動物が作った ・サンタが雪だるまと動物を男の子にプレゼントしているところ ・男の子がサンタにありがとうと言う
	D	森に囲まれている家/自然豊かな空間/おじいさんとおばあさんが住んでいる/森には様々な種類の動物がたくさんいる/何らかの動物が作った雪だるま/家の周りや庭で動物たちが楽しそうに駆け回り	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊する家（動物・旅人が自由に） ・サンタさんが男の子にプレゼント（雪だるま・動物）を用意 ・男の子がサンタさんに気づき、背中に「ありがとう」と言う

		遊んでいる/様子を見ているおばあさんは大喜び	・家では美味しいご飯を食べ, サンタさんからプレゼントがふってくるストーリー ・クリスマスツリーや雪だるまが飾りつけられているところ
2	E	雪の降っている日の雪だるまの親子が歩く/森を抜けた家の赤い屋根/家に入りたいが入れない/エルサの氷の城へ/エルサ, アナ, オラフと一緒に美味しい物を食べ, 遊ぶ。	・スケープにない登場人物が主人公 ・子どもでも分かる「感動」物語 ・赤い屋根の家に住んでいる家族の話 ・季節にちなんだサンタの話
	F	雪の積もったある日/一つの家族(父・母・長男・長女・次女/学校が終わって子ども3人が家に帰り雪遊び/雪だるま作り	・サンタの存在を忘れていたが, クリスマスなので入れているところ ・アナ雪の要素を入れていて夢がある ・氷のお城が出てきて, 想像すると綺麗 ・主人公の名前
	G	森の奥の小さな家/ウィリアムとおばあさん/おばあさんは病気/ウィリアムの週に一度の買い出し・ソリ/雪だるまの2つのプレゼント/家の中にも食材とおもちや/家を飛び出し空を見るとサンタクロース/クリスマスもしないウィリアムにプレゼント	・エルサ, オラフといったディズニーキャラクターが出てきて想像が膨らむ ・何気ない日常が描かれてよい
	H	(授業記録公開の許諾なし)	
3	I	音もなく降り続ける雪/寒さが厳しい季節/夜空に満月/星が明るく光る/赤い屋根の住人か, 雪だるまの親子が外に/肩を寄せ合ってたたずむ	・0:23頃という表現が心の風景を表わしている
	J	家の前に木:安心感が出る/にんじんを一番目立つようにしている(前時に食べた)/家の隣に雪だるま:家の中の人の製作/時刻は0:23です/プラネタリウムの世界の中	・家に住人は, 人間とは限らない ・PM23:54 ・雪がしんしんと降っている ・綺麗な形をした満月
	K	クリスマス/サンタを待つ/プレゼントを受け入れる準備はできている家の中/子どもの笑顔	・たくさんの星 ・雪が静かに降っているところ ・時刻0:23と決める
	L	赤い屋根の家があり, 子どもたちがいる/雪だるまをつくり, 待ちわびている/ (補講参加による聞き取り内容)	・(補講参加により:交流活動は省略)

4	M	草が見えていた道が一面真っ白に染まった/今日雪が降った/嬉しさのあまり雪だるまづくり/夜空に星/今日は素敵な1日/明日はどんな1日になるか/よし、今日は寝よう	<ul style="list-style-type: none"> ・森の中のお話だった ・あたたか家族のお話でほっこりした
	N	森の中/ポツンと一軒/そこにいる、とある親子が暮らす/ある日たくさんの雪が降り積もる/子どもがさっと雪だるまを作る/一人は寂しいだろうと二つ/寒さに負けないよう子どもがマフラーをつける/寒空の下、その空間は雪が溶けそうでした	<ul style="list-style-type: none"> ・雪だるま視点でも考える
	O	森の中に住む親子/子どもが雪だるまを作るのか/毎日雪だるまが家にいる/雪だるまがいつも一人でかわいそうだったので今日は二つ作ったみたいだ/家族も雪だるまも幸せそう	<ul style="list-style-type: none"> ・素敵な日常感が伝わってきた
	P	深い深い森の奥のお家/雪だるまのお家は雪の降る日だけ現われる/寒がりの雪だるま/雪だるまは二人寄り添ったり、お家で暖をとったりするのもある/お家で温まりたいが、雪だるまには手が無いので家には入れない/今日も寒空の中で温まろうと頑張っている/雪だるまさん、寒そう	<ul style="list-style-type: none"> ・このスケープがもし目の前になくても想像しやすいお話の内容のところ ・軽い感じで進んでいくところ ・感情を取り入れて情景を表わしているところ

学習者たちは、グループメンバーとの交流から、共感したことや自分が発想しなかったことなど様々な思いを記入していた。グループごとにその傾向を挙げてみる。

グループ 1

- ・物語の終りが素敵で温かい。
- ・「ありがとう」という言葉。
- ・プレゼント・クリスマスという想像しやすいストーリー。

 (クリスマスから連想するイメージが、多くの人にほっこりとした気持ちを共感・共有させる。)

グループ 2

- ・エルサ、アナなどのディズニーキャラクターから派生する物語。

 (学生 E が想像した内容に影響を受けて、他の学生が呼応して)「いいなー」と感じて記入している。)

グループ 3

- ・「設定時刻」について呼応した反応をしている。
- ・雪がしんしんと降っている様子。

グループ4

- ・情景に「森」「奥」「ポツン」というイメージを共有している。
- ・その情景に合わせて、「寂しさ」から「温かさ」に向かう気持ちを共感している。

鹿内らは、メルヘンスケープを用いた授業の効果として、「アートは、自分をリラックスさせたり、緊張を和らげたり、自らを癒やしたりするツールとして活用もできる。アートは、ごく一般の人でも取り組むことができる活動である。」と述べている(鹿内他 2009c, p.322)。授業を受けている学習者たちは、まさに、メルヘンスケープを制作しながら自らを癒やし、共感し合うことによって安心感をいただいている。その気持ちは、書くことへの苦手意識を克服する大きな力として働いていると考える。

協同学習が創作文に与える影響

私たちは、保育園や幼稚園から現在に至るまで、集団生活の中で学んできている。集団での学習の効果の一つは、他者への影響である。杉江は、協同学習について「メンバー一人ひとりの成長への願いを学級の全員が理解し合い、『学級メンバー全員のさらなる成長を追求することが大事なことだと、全員が心から思って学習すること』が協同学習なのです。(杉江 2011, p.20)」と述べている。本研究においてもその効果が見られる。それは本研究の目的である、書くことへの苦手意識の克服、および保育者としての実務的な能力(例えば保育日誌や指導案・園だよりを作成する力など)の向上についてである。本授業で学習者たちは、メルヘンスケープ制作を通して、他者の考えを取り入れたり影響を受けたりしながら創作文を作っていく。このような協同的学びの経験は、将来的に、子どもの見方・関わり方を柔軟・多様にしていくことにもいかしていけるはずである。

このステップでも、協同学習の効果とみられるポジティブな変化が見られた。次に「心の風景」作文の一例を紹介する。学習者Cと学習者Dは、

「心の風景」の個人メモを箇条書きで記入していた。この2名はグループ共有の後で自発的に創作文の形に改訂していた。協同学習の効果がよく発揮された例である。

学習者Fと学習者Pは、「心の風景」メモの段階ですでに、文章で記述していた。グループ共有の後には、共有した内容を取り入れ、さらに改訂作文を記述している。

各例とも、学習者がグループメンバーの発言から影響を受け作文内容に取り入れたと考えられる内容を四角囲みで示す。なお、明らかな誤字脱字は修正してある。

グループ1-学習者Cの記述例

〈「心の風景」個人メモ〉

- ・クリスマスイブ。
- ・星の子たちがクリスマスの準備をしている。もみの木に飾りをしている。
- ・もみの木にかざりをしている。
- ・親子の雪だるまを作り、帽子とマフラーをプレゼント。
- ・準備が終わったら夜になった。
- ・お母さんとお父さんが呼ばれ、美味しい料理と暖かいお家で食べる(おじいちゃんやおばあちゃんが来た)。
- ・みんなでメリークリスマス。

〈協同学習後の記述〉

サンタが雪だるまと動物を男の子にプレゼントしているところ

きょうはクリスマスイブ。ほしの子どもたちがクリスマスのじゅんぴをしています。

「このもみの木には、赤のかざりをつけたいな！」

「じゃあ、リボンもかざろうよ！」

みんなでもりのなかのもみのきをキラキラ、ピカピカにかざりつけました。こんどはゆきだるまをつくろうと、ゆきのたまをコロコロころがしました。

「ひとりだとさみしいから、もうひとつゆきだ

るまをつくろうよ！」

「こんどのゆきだるまは、おおきくするよ！」

ゆきだるまをつくりおわたたほしのこたち。ピューッとかぜがふいて、ほしのこどもたちとゆきだるまは「ハックション！」とくしゃみをひとつ。

「ゆきだるまにはぼうしとマフラーをプレゼントしよう！」

「これでポカポカだね！」あかいぼうしとマフラーをつけてもらって、ゆきだるまはニコリわらいました。

「ほしのこどもたち、ごはんができましたよ！」

すっかりそとはくらくらなり、おとうさんとおかあさんがあたたかいこえでよんでいます。

「わあ！おいしそうなケーキ！」

「こっちのりょうりもおいしそう！」

いっぱいあるりょうりに、よろこぶほしのこたち。

トントントン！だれかがドアを叩いています。

「こんばんは！」

もりにすんでいるどうぶつさんたちも遊びに来ました。

「みんな、せきについたかな。じゃあいくよ！」

「メリークリスマス！」

学習者Cの「心の風景」メモには、もともと「動物」の記述はなかった。けれども、お話では後半に動物が登場し、星たちと一緒にクリスマスを祝う場面が書かれている。グループメンバーのアイデアに刺激され、クリスマスイブのほっこりした楽しさを演出するため取り入れたものと考えられる。

グループ1ー学習者Dの記述例

〈「心の風景」個人メモ〉

- ・ 森に囲まれている家
- ・ 自然豊かな空間
- ・ おじいさんとおばあさんが住んでいる
- ・ 森には様々な種類の動物がたくさんいる

・ 何らかの動物が作った雪だるま

・ 家の周りや庭で動物たちが楽しそうに駆け回り遊んでいる

・ その様子を見ておじいさんおばあさんは大喜び

〈協同学習後の記述〉

クリスマスツリーや雪だるまが飾りつけられているところ

ある森の奥深くにたった一つの大きな家がありました。そこは自然が豊かなところで、とても静かな雰囲気でした。この家にはおじいさんとおばあさんが住んでいました。

今日はクリスマスの夜だというのに、いつものように静かに過ごしています。ここは森しかないのに、にぎわいの音楽や物もありません。きっとサンタさんも、こんな森の奥の家なんて気づくはずがありません。それに気づいたおじいさんおばあさんがとてもがっかりしていました。今年は、いやこの先のクリスマスにもこんな静かに過ごすのか。

がっかりしていたその時！何やら家の外からいろいろな鳴き声が聞こえました。

なんだなんだこんな所に！

びっくりしながら、窓から外を見てみると、家のすぐ近くに動物が集まっていたのです。色々な種類の動物が何匹も、おじいさんおばあさんの家の周りで遊び始めたのです。

最初はびっくりしたものの、おじいさんおばあさんは、大喜び！

外に出て動物たちにクッキーと温かい飲み物を持っていきました。それに気づいた動物たちはそばによって集まり、「ありがとう！」と声をそろえて言いました。

おじいさんおばあさんは「どういたしまして！いつでもまた遊びに来てね！」といいました。

すると動物たちは、「おじいさんおばあさんにお礼をしなくちゃ！」といい、なにやら庭に何かを作り始めたのです。様子を見守って

いた2人が目にしたのは、
「メリークリスマス!!!」と両手を広げて雪だるまと木の飾りつけを見せました。

おじいさんおばあさんは感動しました。今年はいよいよクリスマスになりました。

学習者Dも、前半は自分の考えをそのまま踏襲し、後半にグループメンバーの考えを取り入れた形になっている。特に個人メモではなかった「雪だるまと木の飾りつけ」については、協同学習の成果と考えられる。

グループ2ー学習者Fの記述例

〈「心の風景」個人メモ〉

雪の積もったある日。1つの家族がある。お父さん、おかあさん、長男、長女、次女だ。学校が終わったのかランドセルを背負った子ども3人があかい屋根の家に入っていきの見える。

「ただいまー!」と3人とも口を揃えて言う。するとまもなく3人がツナギを着て手袋、帽子をつけ長靴を履き家から出てきた。3人で遊ぶのだろう。何して遊ぶのか。最初は雪玉を投げて遊んでいた。しばらくすると次女が「ゆきだるまを作りたい!」と言った。3人で手分けして2つのゆきだるまを作った。雪だるまに帽子とバケツを最後にかぶせた。完成すると次女が「おかあさん!雪だるまを作ったよ!」とおかあさんと呼んだ。するとお母さんは「すごいね!この雪だるまは崩さないで記念にとっておこうね。」と言って2つの雪だるまは仲良く外にいたのでした。

〈協同学習後の記述〉

- ・みんなの知っているディズニー作品の要素を入れる。
- ・氷のお城の想像がすごく綺麗だった。
- ・主人公の名前を入れる。

お父さん、お母さん、長男(太郎)、長女(たえこ)、次女(たけこ)の5人の家族がいた。

家族は冬にキャンプをすることにした。山に着きバーベキューをし、少し休憩をした後、太郎とたえこ、たけこの3人で少し散歩をすることにした。お母さんが「あまり遠くまで行かないようにね。」と言った。すると3人は「はい!」と返事をした。少し歩いていると赤い屋根の家を見つけた。家の周りを歩いていると、雪だるまがあった。するとたけこは「お母さんに見せたいからよんでくる」と言い、3人でお父さんとお母さんを呼びに行った。

赤い屋根のあった所に戻ると、何と家はなくなっていたのだ。家があった場所には氷のお城があった。そこには、たくさんの食べ物があり、たくさんの人がいた。家主のエルサが5人を見つけ「一緒に食べましょう」と声を掛けた。みんなで楽しくごはんを食べた後、子どもたちは雪遊びを始めた。最初は雪合戦をしていたが、たけこが「雪だるまを作りたい!」と言った。みんなで2つの雪だるまを作った。帽子とバケツを頭にのせ雪だるまが完成した。

5人は目を覚ました。寝ていたみたいだ。赤い屋根の家があった場所に行ってみるとみんなで作った雪だるま2つがあった。

学習者Fは、グループ共有により影響を受け、ディズニー作品の要素を取り入れたお話に改訂している。「夢が醒める」という物語によくみられる結末になってはいるが、協同学習によりアイデアを追加し、お話は創られている。

グループ3ー学習者Pの記述例

〈「心の風景」個人メモ〉

深い深い森の奥に、雪だるまさんのお家があります。

雪だるまさんのおうちは、雪が降る日にしか現われません。

雪だるまのことですので、寒さに強いかと思いきや、案外みんな寒がりなのです。雪だるまさん同士寄り添っていたり、おうちにくっ

ついて暖をとっていたりしている雪だるまさんもいます。おうちに入って温まれば良いのですが、雪だるまには手がありません。ドアノブをつかんで開けることができないのです。つまり、雪だるまさんは折角目の前に自分たち用のおうちがあるのに、手がないのでは入れません。

今日も雪だるまさんは寒空の下で温まろうと頑張っています。雪だるまさん寒そう。

〈協同学習後の記述〉

- ・このスケープが目の前になくても想像しやすいお話の内容のところ
- ・軽い感じで進んでいくところ
- ・感情を取り入れて情景を表わしているところ

深い深い森の奥に、雪だるまさんのお家があります。

雪だるまさんのおうちは、雪が降る日にしか現われません。

雪だるまのことで、寒さに強いかと思いきや、案外みんな寒がりなのです。雪だるまさん同士寄り添っていたり、おうちにくっついて暖をとっていたりしている雪だるまさんもいます。みんな寒そうなのに幸せそう。おうちに入って温まればよいのですが、雪だるまには手がありません。ドアノブをつかんで開けることができないのです。つまり、雪だるまさんは折角目の前に自分たち用のおうちがあるのに、手がないのでは入れません。ちよっぴり残念な気持ちになりながらも、寒空を見上げ、雪を見て楽しんでいます。

今日も雪だるまさんは寒空の下で温まろうと頑張っています。雪だるまさん寒そうだけど、寄り添う姿にほっこりしますね。

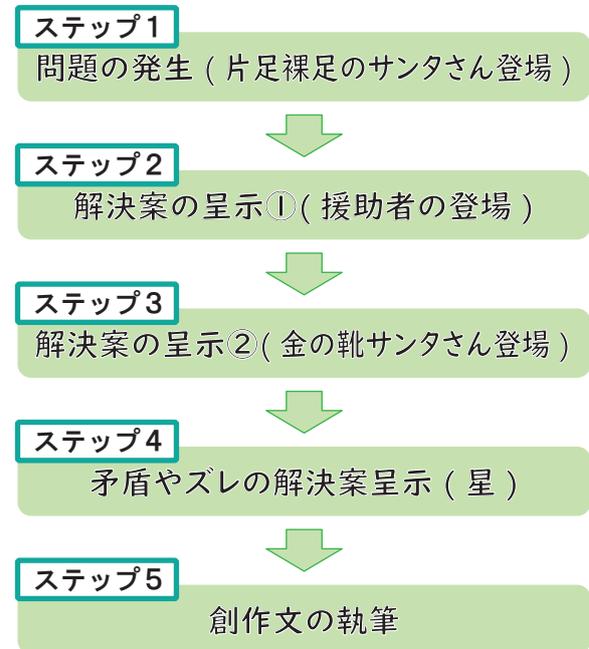
学習者Pも自分の考えを踏襲しながらグループ共有で得たアイデアを取り入れ、お話を書いている。個人メモの記述では「雪だるまさん寒そう。」で終わっているが、改訂後は「雪だるまさん寒そ

うだけど、寄り添う姿にほっこりしますね。」のように「感情を取り入れて情景を表わ」す表現を追加している。

III-3 第13回目授業

本時では、書くことへの苦手さを克服し、第12回目授業で産出された作文の物語性をさらに高め、楽しく広がりのあるものにしていくことを目指していく。第13回目も教示手順(表5)に添って、授業の様子を紹介していく。協同学習を行う小グループは、第12回目の授業と同じである。

表5 第13回目授業の流れ



【ステップ1】 問題の発生(片足裸足のサンタさん登場)

メルヘンスケープ法

<指示4>

①「ある人」の登場
⇒のりしろを使って、風景に添付

②よくみて考えて、物語すること
⇒記入プリントに(問題の発露)
・様子は? 起っていることは?
思っていることは?その訳は?



4

スライド4



図3 「ある人」問題発生サンタさん

最初に、前時に制作したメルヘンスケープを返却配付する。続いて、スライド4を呈示し、「ある人」(図3)を配付する。さらに記入用のワークシートを配付して以下の4項目について考えを記入してもらう。

- ・指示4-Q1 この人の様子は？
- ・指示4-Q2 何が起っていますか？
- ・指示4-Q3 何を思っていますか？
- ・指示4-Q4 その訳(理由)は？

なお、「ものこと原理」の考え方から、Q2・Q3は「どんなことが起っていますか?」「どんなことを思っていますか?」とした方が、解答の幅を広げる望ましい発問であった。本稿末に再構成したスライドを掲載しておく。

個人思考の後、各グループでQ1からQ4までのそれぞれの考えについて共有した。交流中は、第12回目授業と同様にグループメンバーの良いと思う考えを各自メモするよう指示した。他者の意見や考えを自身の物語と巧く融合したり、内容を新たに挿入したりすることを期待した。表6に、Q1～Q4への各自のメモをまとめて紹介する。

表6 「問題の発生」についての解答

グループ	学生 No.	Q1)この人の様子	Q2)起っていること	Q3)思っていること	Q4)その訳(理由)
1	A	片足しか靴を履いていない/サンタのかっこう/顔が青ざめている	煙突からは入ろうとしている	体が大きく、煙突から入らなくて焦っている	・煙突には入れないから ・偽物でばれてしまうと思っているから
		友達のよいところ	・靴が先に落ちてしまっていて、中にいる人が起きてしまうところ ・高いところが怖い(下を見てしまったから)ところ		
	B	サンタの格好/靴が片方無い/青ざめている	えんとつから家の中に入ろうとしている	煙突から入ろうとしたら片方の靴だけ先に家の中に入っていて焦っている	・靴だけ煙突から家の中に入ってしまった ・家にいる人を起こしてしまったかも
		友達のよいところ	・偽物サンタで、ばれてしまうかもしれないと焦ってる。 ・体が大きくて煙突から入れなくて焦っている。 ・恐る恐る。高いところが怖い→屋根に登ったら高くて怖い		
	C	サンタのかっこうをしてる/恐る恐る行動/靴が片方脱げている	煙突から入ろうとしている	高いところが怖い	・煙突から家に入ろうと思って屋根に登ったところ、下を見たら高くて怖い
		友達のよいところ			

		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・偽物のサンタ ・靴が片方, 家の中に入ってしまい, 家の人が起きてこないか心配。 		
	D	家の煙突から入ろうとしている/狭い/汚い/困っている様子	家の煙突から入ろうとしている/覗いている	狭くでは入れるかな/入ったら汚れるかな/どうしたら入れるかな	<ul style="list-style-type: none"> ・家には入れなくて悩んでいる ・プレゼントが届けられない
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・盗もうとしている (どろぼう) ・ドアから入るとばれる 屋根はありきたり ・どう入ろうか悩んでいる 		
2	E	靴が脱げた	煙突の中に靴が落ちた	やっペー	<ul style="list-style-type: none"> ・片足の靴だけが脱げていて, 慌てている表情をしているから
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの考えに個性がある ・「プレゼントが届けられない」という考えがよいと思った 		
	F	靴を履いていなくて足が寒い	足を床につけられなくて前に進めない	足の裏, 寒いな～	<ul style="list-style-type: none"> ・靴がなくて片足をあげているから ・青ざめているから
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人考えていること, 感じていることが全く違うから ・靴が脱げた 		
	G	怖がっている/震えている	お家でビクビクしている/寒くて凍えている	落ちるー!!!!	<ul style="list-style-type: none"> ・片足の長靴が脱げているから ・不安なような顔をしている
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・同じかと思っても違う ・個性がある 		
	H	(授業記録公開の許諾なし)			
		友達のよいところ	(授業記録公開の許諾なし)		
3	I	焦っている	プレゼントを届けに行く時間なのに, 靴が片方無くて, 時間に間に合わないかもしれない	「よりによって, どうしてこんな時に靴がないんだよ!」と泣きそうなくらい焦っている	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界中の子どもにプレゼントを届ける」という自分の役目を果たせないかもしれないから。
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・「雪の中に靴が埋まって足が冷たい」などの発想をしていてよいと思った。 		

	J	片足裸足で、焦っている/赤い服を着ている/白いひげがある	雪に片方の靴が埋まって、寒いなど思っている/雪の中、片方裸足になっちゃった	「あれ、ないな」/ 「やばい、寒い！」 /「絶対この辺にあると思うけど・・・」	・真冬に裸足は寒いから ・雪に靴が埋まったら、探すのが大変で、探しにくいから
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・空から落としてしまった ・靴が出発前なのに見当たらない など、私にはなかった考えがたくさんあった。		
	K	靴がなくなり、焦っている	靴が雪の中に埋まって何処にあるか分からない!	靴がなくて焦る、寒い!	・冬に素足は寒いから ・家にプレゼントを届けられない
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・空から靴が落ちてきた ・プレゼントを届けるのが間に合わない 		
	L	片足しか靴がない	空を飛んでたら地上に靴が落ちちゃった	高いところが怖いよ	・高所恐怖症だから!!!
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの夢を壊しちゃう!!と、焦っているところ 		
	4	M	あせっている	プレゼントを渡すために煙突に入るうとしている	片方の靴がなくて冷たい!!
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ一緒の考えだった 		
N		焦っている様子	サンタが家に行こうとしている	プレゼントをどう届けるか悩んでいる	・ドアから入ってもばれるし、屋根はありきたりだから、どこから入ろうか悩む
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・サンタ以外の発想がおもしろい ・靴が脱げたから、焦っているという発想がすごい 		
	O	焦っている	靴が片方無くなっている	「どうしよう」と思っている	・靴が片方無くなって困っていたから ・プレゼントを早く持っていけないのに、靴がないから焦る
		友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ一緒だった 		

P	挙動不審	煙突に入ろうか迷っている	罪悪感/不安/おびえ	・今から泥棒する家の煙突に靴を落としたから ・本当に入ろうかためらっているから
	友達のよいところ	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている ・入れるかな, 汚れるかな ・家にプレゼントを置ける ・焦っている ・家に行こうとしている ・家はありきたりの情景が想像しやすい 		

問題の発生に対する学習者の反応は、質問ごとに一定の傾向が見られる。特に Q1 ~ Q3 は似たような解答が多い。例えば、次のような内容である。

Q1 「この人の様子は？」 ⇒サンタクロースが靴を片方履いていない (なくした・落とした)
Q2 「何が起っていますか？」 ⇒煙筒から入ろうとしている
Q3 「何を思っていますか？」 ⇒困っている・焦っている・足が冷たい

これらは、図3の問題発生サンタさんからある程度容易に読み取ることができる「こと」である。しかし、呈示された問題は学習者にとって未解決の状態であり、サンタさん同様に困った、居心地の良くない状態である。そこで、問題解決への思考を促すため次のステップに入る。

【ステップ2】 解決案の呈示① (援助者の登場)



図4 援助者

メルヘンスケープ法

< 指示5 >

①「援助者」の登場
⇒のりしろを使って、風景に添付

②よくみて考えて、物語すること
⇒記入プリントに(問題解決案)
・どんなお助け案を提示したか
プリントに物語して下さい。

スライド5

「援助者」(図4)を配付しスライド5の指示によって授業を展開していく。記入用ワークシートを配付し、援助者の支援方法を個人思考で記入してもらおう。記入が終わったら、グループ内で内容を共有し、「いいな」と思ったことなどをさらに記入してもらおう。学習者が考えた援助者による解決方法を表7に掲載する。太字は筆者によるものである。なお、スライド5では「よくみて考えて、物語すること」という言葉で学習者に指示をしている。看図作文は元々、読み解きに適した絵図を用意し、読み解きを促進する発問を設定することで書くことを動機づけていく指導法である。「よく見て」という表現は指示には用いない。このスライドについても、再構成したものを本稿末に掲載しておく。

表7 援助者が授けた解決案

グループ	学生 No.	学生の記述内容 (援助者はどんな解決案を示すか)
1	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本物のサンタにテレパシーを送り、偽物を追い出す ・魔法を使える
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「煙突は諦めて、お家の玄関から入りな。」と、声をかける。 ・雪だるまが落ちた靴を魔法でとって、眠りから起きた人たちを何もなかったことにして眠らせる。 ～偽物にも優しい。魔法は使えないけど、言葉で魔法をかける。
	C	<ul style="list-style-type: none"> ・「サンタがずっと怖がっていたら、みなにプレゼントを渡すことができないよ。頑張って!」と、応援する。見守る。 ・「ぼく魔法が使える雪だるまなんだ!ちちんぷいぷい高いところは、恐くなくなれ!これで、大丈夫だよ!」と、思い込ませる。 ・本物のサンタが、偽物のサンタにプレゼントを渡す。 ・魔法を使って、サンタを助ける。
	D	<ul style="list-style-type: none"> ・雪だるまのために、煙突から通らせて、入るかどうか実践する。 (雪だるまと、ほとんど同じ大きさだから) ・雪だるまを家の前に置いて、家の人を注目させ、その隙に急いで煙突に入ってプレゼントを置く。
2	E	<ul style="list-style-type: none"> ・通りすがりの雪だるまがサンタに声をかける⇒雪だるまが小さな音で窓を叩く⇒お母さんが気づいて子どもに声をかける⇒子どもが靴から離れる⇒サンタが急いで取りに行く。 ・魔法が使える雪だるま/雪だるまのマフラーをサンタの足に巻いて、靴の代わりにする/ただのサンタでなく。新人のサンタ
	F	<ul style="list-style-type: none"> ・脱げて無くした靴を、魔法を使って出す。 ・マフラーを足に巻く。 ・親子が出てきた。
	G	<ul style="list-style-type: none"> ・空の境目を渡っているサンタクロスは、今年入社した新人で色々ハプニングを起こす。それを見た雪だるま社長が、魔法で助ける。 ・友達：母と子が出てきて作戦会議。 ・マフラーを長靴代わりにする。
	H	(授業記録公開の許諾なし)
3	I	<ul style="list-style-type: none"> ・靴が片方無くなっているサンタに気づいて、雪だるまが時速 100 キロ超のスピードで森を転がり街まで行き、靴を買ってきて無事に時間に間に合う。
	J	<ul style="list-style-type: none"> ・雪だるまは足が長くて細いから、雪の中にささって埋まっている状態だから、「一

		緒に探しますよ」と声をかけて、とりあえずものすごく歩き回っていたから、コツンと雪だるまの足にはおじさんの靴があたって見つかる。結構、スネが痛くなる。
	K	・雪だるまさんが代わりにプレゼントを届けに行ってくれる。 (雪だるまは魔法で、暖かいところにも、溶けない!!)
	L	・サンタさんが、高いところを怖がっている間に、雪だるまが羽を生やして空まで靴を届けてくれた。
4	M	・とりあえず声をかける ・少しでも暖まるように、マフラーをあげる。 ・雪だるまが魔法を使って靴を出す。
	N	(欠席により資料なし)
	O	・雪だるまが魔法で靴を出してくれる。 ・マフラーをサンタさんにあげる。
	P	・雪だるまさんがそっと止めてくれる ・「サンタさんは人を笑顔にするんだよ」(説得) ・「持っている袋から1つプレゼントを渡すんだ。」(説得) ・「靴を見た住人は、サンタさんが来た!と、喜んでいるに違いない。」(説得) ・「その煙突に入って皆を喜ばせてあげて。」(説得) ・「せっかくのクリスマス、皆が嬉しくなることをしよう」(説得)

雪だるま(図4の援助者)が授ける「お助け案」には、2つの特徴がある。その一つは、「魔法」という言葉である。本時の授業参加者14名(資料として活用可能な者)のうち、8名が自分の発想の中から「魔法」という言葉を挙げて、解決方法を述べている。本題材はクリスマスという、子どもにとっても、また大人にとっても、夢や安らぎというような気持ちを与えるのに適した題材である。学習者たちは、クリスマスがもっているイメージを満たすための方法として、「魔法」という言葉を選択して問題の解決を目指したと考えられる。

【ステップ3】解決案の提示②(金の靴サンタさん登場)

メルヘンスケープ法

解決策を考え・聴き合いました。

でも、

お助けキャラ(援助者)がくれた解決方法は、次に提示するものでした。

「配付したサンタクロス」と貼ってある「サンタクロス」を取り替えて下さい。

スライド6



図5 問題解決サンタさん

スライド6を呈示し、図5のサンタクロースを配付する。授業者は、学習者たちに図5のサンタクロースを、スケープに貼ってある図3のサンタクロースに交換するよう求める。図5のサンタクロースは、裸足だった左足に靴を履いている。この部分が、学習者が新たに考えるべき問題になる。それは、学習者が今まで援助者を手掛かりに考えてきた問題解決方法と授業者が呈示した問題解決方法に、ズレが生じてくるからである。

この状態は例えば、保育場面における保育者の子どもに対する状況認識と、家庭における子どもの状況認識の違いから、解決方法を創造していくというプロセスに似ている。保育者は状況認識のズレを何らかの方法で解消したり、ズレはズレとして認め家庭でも家庭以外でも適用可能な解決方法を見つけたりする工夫が必要になる。授業は、形は異なっているが現場の問題の解決訓練にもつながると考える。ナタリー・ロジャース(2000)は、「実際に創造のプロセスに自分を投入すると、創造的になることを妨げていた障害から開放されます。(p.41)」と述べている。これは文章表現をはじめとした創造的な表現活動が、自分を見つめ発見していくことに有効であることを示唆している。本授業でいえば「書く」ことに苦手意識をもっ

ている学生が、お話を創造していく過程で、書くことへの抵抗感を無くしたり軽減したりできることにつながると考える。

図5のサンタクロースの登場により、学習者たちは解決方法を変えたり、解決方法に手を加えたりすることを余儀なくされる。そして学習者は、なぜそのような解決方法になったか、お話の流れを合理的に説明するための「もの」や「こと」が必要になる。

【ステップ4】 矛盾やズレの解決案呈示 (星)



スライド7



図6 星

スライド7を呈示し、これまでの考えとのズレを解消するための「もの」として、「星」(図6)を配付する。そしてスケープボックス内の好きなところに貼付してもらおう。

【ステップ5】 創作文の執筆

学習者たちは「星」を活用して、「問題-解決」構造をもった創作文を書き上げていく。次のように指示し作文を促す。

このアイテム(星)を活用し、心がほっこりする物語を完成させて下さい。

作文執筆には、授業後半の40分ほどをあてた。

学習者が完成させたスケープと創作文を以下に紹介する。明らかな誤字・脱字は修正してある。

学習者Aのスケープと創作文

タイトル「クリスマス 後編」



サンタが帰ったあと、屋根から家の中に入ろうとしている人がいました。それは、サンタの格好をした男でした。サンタが男の子にプレゼントを（するのを見た）雪だるまが、その男を見つけてサンタに「サンタさん、泥棒が男の子の家に入ろうとしています。」テレパシーを送りました。サンタは急いで男の子の家に向かい偽物のサンタを追い出しました。偽物のサンタは、「私はプレゼントをもらったことがなくて、盗もうとしてしまいました。」と、本物のサンタに話しました。サンタはその話を聞いて、偽物のサンタにプレゼントを渡しました。男はプレゼントを初めてもらい大喜びをし、「私を弟子にしてください。」と、サンタにお願いしました。サンタは、「では君にこの星をあげよう。この星を持つことで今日から君もサンタの一員だ。早速、この家の男の子に謝罪を込めて君からプレゼントを渡しておいで。」と、言いました。男は星を受け取り、男の子の家にプレゼントを届けてサンタと共に空に帰っていきました。

学習者Aは、前時に「クリスマス 前編」として、本物のサンタクロースが、家に住む男の子へプレゼントを届ける内容の創作文を書いている。この

「クリスマス 後編」には、本授業で設定した「靴を無くした問題の解決」ということには言及されていない。けれども、偽物サンタの要求（問題）を叶えるために、「星」を使用している。制作したメルヘンスケープを見てみると、サンタクロースの左手には「星」が貼り付けられている。まさしくこれからプレゼントを渡すために、家の中に入ろうとしている場面である。このように、自ら問題を見つけ解決していくことができる能力・隠れた問題に目を向けることができる能力は保育者として必要不可欠なものである。

学習者Cのスケープと創作文

タイトル「はじめてのサンタ」



雪が降るクリスマスイブ。

子どもたちが寝始めた頃、一人のサンタクロースが町にやってきました。このサンタは、サンタさん見習いから一人前のサンタクロースになったばかりの新人サンタさんでした。「最初はこの家にしよう。」

ミキちゃん家の煙突から家の中に入ろうと、屋根を登るサンタさん。

「よいしょ・・・。よいしょ・・・。ふう」

屋根のてっぺんまで登ったサンタさん。

「うわあ!？」

雪に滑ってしまい、屋根から落ちそうになったサンタさん。

「あぶなかった・・・。あ!靴がない!？」

サンタさんが屋根から落ちそうになった時、靴を片方落としてしまったのです。

「どうしよう……。あの靴がないと煙突には入れないし……。高いところが恐くなっちゃう！」

サンタさんの靴は、魔法の靴でとても大切なものでした。靴を無くしてしまい、屋根の上で泣いてしまうサンタさん。

「大丈夫？」

「誰がいるの？」

「僕はミキちゃんに作ってもらった雪だるま！」

サンタさんがそうっと下を見ると、マフラーに星の飾りがついた雪だるまが、こちらを見ていました。

「僕は魔法が使える雪だるまさん！君が高いところを恐くなくなるように、魔法をかけてあげる！」

雪だるまは魔法を唱えます。

「ちちんぷいぷい、高いところが恐くなくなる！」

大きな声で雪だるまが魔法を唱えると、サンタさんの足に金色の靴がありました。サンタは喜びます。

「わあ！金色の靴を履いたら高いところも恐くなくなった！ありがとう、雪だるまさん！」

「どういたしまして！」

こうして新人サンタさんは、子どもたちにプレゼントを配ることができました。

学習者Cは、自ら発想し、また、グループメンバーAやBも採用していた「魔法」をお話の中に取り入れている。クリスマスは、多くの子どもにとって夢があり、気持ちがワクワクする行事である。そんな特別な日に、どんなことも可能にすることができる「魔法」は、ぴったりの言葉である。お話では、「魔法」を使って「星」を雪だるまのマフラーにつけ、サンタクロースに金の靴を履かせることに成功している。これは、保育者が、子どもが日々感じる問題やフラストレーションを解消し、子どもの気持ちを楽しくさせる保育姿勢にもつながると考える。

学習者Dのスケープと創作文

タイトル「(無題)」



ある森の奥に大きな家がありました。なにやら、煙突に大きな人影が見えました。今日はクリスマス。そう、この家にもサンタクロースが来たのです。

おや？なにやらサンタクロースが困っている状態ですよ。この煙突は、見た限り狭くて、それに掃除をしていないので、汚れているのです。困ったサンタクロースは、あることを思いつきました。

「そうだ、雪だるまさんに協力してもらって、入れるか試してみよう！」と、サンタクロースは雪だるまさん呼びました。

「なんだい、サンタクロースさん！お困りなら、僕が考えてあげるよ！」

ですが、雪だるまさんはサンタクロースさんと体の大きさがほとんど同じなので入れません。

「困ったなー、どうすればこのプレゼントを届けられるのだろう。」

サンタクロースは言いました。

「あ、良いことを思いついた！煙突からじゃあなくて、家の前から入れれば良い！」

「そんなことしたら、私の姿を見られるではないか！」

「大丈夫！僕が煙突からみんなの様子を見ている！タイミングが来たら教えるからそのすきに玄関に置くんだよ！あっ、サンタクロースさんも窓から様子を見るんだよ？」

納得したサンタクロースは、そっと忍び寄って玄関先に置くことに成功しました。

家の人はサンタクロースの方向を見る気もせず、反対側の窓から空を見上げていました。空を見上げると、そこには先程にはなかった星や流れ星がたくさん現われていたのです。その星の正体は雪だるまさんの魔法だったのです。サンタクロースのために、一夜限りの星空を作り、人の目を注目させるように仕向けていたのです。それはそれはとても綺麗でした。そして、疲れ果てた雪だるまさんは、崩れてしまい姿を消しました。

「雪だるまさん。私のために本当にありがとう。来年もまた会えますように。」

サンタクロースは星空に向かって、他の所にプレゼントを届けるために出発していきました。

学習者Dの創作文は、第12回目授業の創作文との関連はあまり感じられない。けれども、問題解決のアイデアはグループ共有した内容を含めて創作している。例えば、学習者Dはプレゼントの渡し方を最初、「雪だるまを家の前に置いて、家の人を注目させ、その隙に急いで煙突に入ってプレゼントを置く。」方法を考えていた。けれども、創作文では、「タイミングが来たら教えるからそのすきに玄関に置くんだよ!」というように、雪だるまの援助を受けて「玄関に置く」という方法に切り替えている。学習者Dは、グループ内で聞かれた学習者Bの「煙突は諦めて、お家の玄関から入りな。」や学習者Cの「応援する。見守る。」という問題解決のアイデアを採用したものと考えられる。協同学習で受けた影響を創作文に取り入れた典型例である。

学習者Gのスケープと創作文

タイトル「(無題)」



「今年も子どもたちに夢を与える仕事が始まるな、Ha・Ha・Ha!!」

今日は12月24日の朝、そうクリスマスイブです。サンタクロースたちは25日になってからプレゼントを配るため、空中をトナカイと一緒に駆け回ります。

そんな中、今日初めて子どもたちにプレゼントを配るサンタクロースがいました。名前はジョン。ジョンはちょっぴりどじでマイペースなおじいさんでした。

それが心配だった雪だるまのオラフは、こっそり後について様子を見守ろうとしていました。12月25日、チリリーンと鈴の音と同時にサンタクロースたちは一斉に、子どもたちの方に向かうのでした。ジョンも帽子を飛ばされそうになりながらも、子どもたちにプレゼントを届けたのでした。

「おととと～ドン!!」

バランスを崩してサンタクロースは、ある山の雪山に落ちたのでした。

「いててて・・・」

サンタクロースは、頭をぶつけてしていました。ふと足元を見ると、「靴がない!!!!」。黒い靴が片方無くなってしまいました。サンタクロースは、あっちいたり、こっちいたり。でも、なかなか見つかりません。

靴もないし、とっても寒い。サンタクロースは、座り込んでしまいました。それを見かねたオラフは、サンタクロースのことを慰めに行きました。「もうダメだ!」と悲しんでいると、奥から何かが見えました。

「オラフだ!」サンタクロースは、すぐに抱きしめに行きました。

「何か困っていることがありそうだね。」と言うと、サンタクロースは、靴を片方無くして寒くて歩けないことを言いました。

するとオラフは、星のかげらを5つもってこいと言いました。サンタクロースは、空に登り大きなかけらを一つ一つ持ってきました。オラフはそれを使い、何やら魔法をかけました。それを見るとなんとということでしょうか、黄色い靴ができてあがったのです。サンタクロースにもサイズがぴったりです。オラフは「これをつけて頑張るんだ!」と、はげましました。サンタクロースは、この後もみんなの家にプレゼントを届けたとき。

学習者Gの創作文は、グループ内の意見に大きく影響されながらも、個人の最初の思いを上手に融合したものとなっている。例えば、「今日初めて子どもたちにプレゼントを配るサンタクロース」は元来個人で発想した設定である。けれども、「オラフ」や「見守る」といった設定(表7)はグループで共有した内容から取り入れられているものである。表7では「新人」という発想が学習者G本人だけでなく同じグループの学習者Eの中にも登場している。本人の創作文には採用されていない内容もあるが、グループメンバーから出された意見が影響していることがうかがえる。

学習者Jのスケープと創作文

タイトル「サンタクロース覚醒」



サンタクロースという、子どもが一番好きなおじさんがいます。サンタクロースは、プレゼントを子どもに配るために防寒をして、夜に活動し始めました。

でも、雪に片方の足が埋まってしまって、急にとっても寒くなりました。雪が深すぎて全然見当たりません。片足はだしなので探しづらいし、焦っていました。

そこに、雪だるまという雪のかたまりが来ました。実は雪だるまはすごく足が長くて細いので雪に埋まっている状態でした。

「一緒に探そうよ。」と声をかけて、とりあえずものすごく歩き回りました。いつか、くつにコツンと当たって、見つかるだろうと期待を込めて。

でも、見つかりません。なぜだか急に流れ星が落ちて、サンタクロースが覚醒しました。くつがメリメリと出来始め、サンタクロースの裸足の足をおおいました。

「これで、プレゼント配りが再開できる!」と、サンタクロースは喜び、雪だるまも嬉しそうなサンタクロースを見て喜びました。

別れた後、雪だるまはスネがすごく痛いことに気づきました。アドレナリンが出ていて気づかなかったけれど、歩き回っているときにぶつけていたらしいのです。でも、雪に埋まって冷えているから、明日には治るでしょう。なんて考える、優しい優しい雪だるまに、私もなりたいなあ。

この創作文は、他者から受けた影響は大きくない。けれども、起きた問題に対する状況や対処法を、本人の発想を含めてまとめている。「実は足が長くて細い雪だるま」のように、必要な事柄だけでなくユニークな、独自の発想をいかして物語を表現している。

学習者Pのスケープと創作文

タイトル「(無題)」



あるクリスマスの夜、一人の影が一つの家の前にいました。この人の名前は、サンタクロースさん。本来サンタクロースさんは、皆にプレゼントを配るのですが、今日はなんだか様子が変わります。「どうでしょう……。入ろうかな。やっぱり止めようかな。」

サンタクロースさん、どうしたのでしょうか。ちょっと心の中をのぞいてみましょう。

“最近景気が悪くて……。ドロボウしないと生きていけないなんて……。”

どうやらサンタクロースさんは、泥棒しようとしています。どうにかして、止めないと！「しかも、靴一足、煙突の中に落としちゃうなんて。家の中の人にばれちゃうよ。」

サンタクロースさんは、不安と罪悪感に押しつぶされそうです。

その時、一匹の雪だるまさんが現われました。

「こんばんは、サンタクロースさん。こんな所で何しているの？」

「今からこの家に泥棒しようとしているんだけど、やっぱり、申し訳ないよ。」

そんなサンタクロースさんを見た雪だるまさんは、こうアドバイスしました。

「サンタクロースさんは、皆を笑顔にするんだよ。今まで君も見てきたでしょ。せっかくのクリスマス。皆を笑顔にしない？君も笑顔を見たら嬉しくならない？さあ、その袋からプレゼントを一つ渡してこよう。」

「そうだね。私は皆を笑顔にする存在。渡してくるよ。」

サンタクロースさんは、考えを改め、煙突に入ろうとします。

「待って。君靴が一足足りないよ。それじゃあ格好がつかない。僕に任せて。」

雪だるまさんはそう言うと、星空に願いを込めました。すると星は、キラキラと光り、1つ降ってきました。星はまばゆい光を放ち、サンタクロースさんの靴に変わりました。

「わあ。私の新しい靴かい。素敵だね。」

「その靴を履いて、会いに行こう。僕も一緒に行くね。」

こうしてピカピカの靴を履いたサンタクロースさんと、雪だるまさんは煙突から家に入り、皆に笑顔を届けましたとき。めでたし。めでたし。

学習者Pは、援助者である「雪だるまさん」や問題を解決するアイテムとなる「星」を、見事に活用した物語の創出に成功している。グループ共有では、学習者M・Oから「魔法」についての発言があった。学習者Pは、他の学生の考えを巧みに取り入れ、星がサンタクロースの靴に変化するという「問題—解決」のストーリーを創りあげた。

IV. まとめと今後の課題

本研究では、看図作文用に開発されたメルヘンスケープ法を活用し、協同学習を取り入れ授業を行った。それは、看図作文・看図アプローチの手法を活用することにより「書くこと」に対する苦

手意識を克服し、大学での学修に必要なスキル獲得に大いに貢献できると考えたからである。

学習者たちは本授業をどのように感じたのであろうか。本授業に対する学習者の感想を以下に紹介する。(欠席等で未記入の者は不掲載)

学習者たちの感想

- ①自分でイメージして物語を考えるのは難しかったです。友達の話を聞いて楽しかった。
- ②自分で物語を考えるのが苦手な難しかったけど、友達の考えを聞いたり発表し合うのが他の授業ではないので楽しかった。
- ③人物が指定され、結末が決められていると物語を作ることは難しいと思いました。
- ④友達の考えを聞いて、自分とは違う世界観を想像していて、想像力が豊かでファンタジーないろいろな物語が聞いておもしろかったです。
- ⑤今までとは違って自分が考えていた案の内容が不自然になってしまったりして、物語を少し考え直さないといけなくなり大変でした。しかし、最初に考えた物語を入れて、また新しい物語を作ることができたので良かったです。
- ⑥自分の考えと相手の考えが全く違って、話し合う時間がとても楽しかった。好きなことを文字にしたりすることがあまりなかったから、3時間がとても楽しかった。
- ⑦お話を作るのが難しく、大変だった。
- ⑧友達と交流したことで、自分では考えていなかったおもしろい発想がたくさんあったので、違う視点からの意見や考えを知れて良かった。
- ⑨初めて受けたが、イラストを見ながらストーリーを作っていくことはとても楽しかった。また、自分が思いつかないようなストーリーが、友達から聞けるのも新鮮で楽しく感じた。
- ⑩自分で物語を考えるのがワクワクしてとて

も楽しかったです！

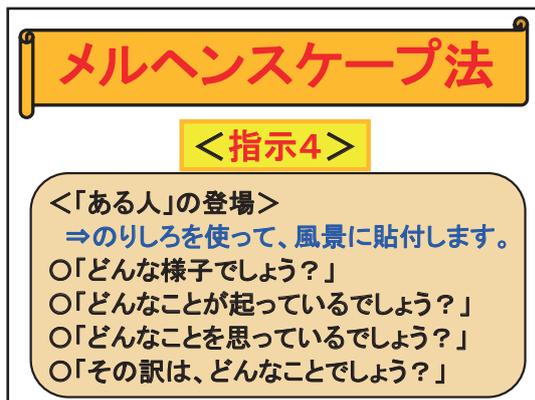
- ⑪キャラクターの気持ちを想像して考えることがなかなか無いので、子どもの気持ちになって考えることができました。木や雪だるまなど自由に貼ったりできて楽しかった。
- ⑫雪だるま一つで、一人ひとり全く違う発想があり、とてもおもしろかったです。自分で想像してお話を考えることが好きなので楽しかったです。
- ⑬一人一人同じものを使っているけど考えが違うのがおもしろいと思いました。
- ⑭2人の話を聞いて、このような考え方もあるんだと勉強になった。話を上手につなぎ合わせて一つの物語を作ることを通して、想像力を伸す役割や自分で情景を考えて書き起こす楽しさを感じた。

学習者たちは、本授業を体験する前、創作文を書くことに苦手意識をもち、どちらかという否定的感情をもっていた。けれども、結果として、大部分の学習者が「書くこと」の授業に楽しく取り組み、創造性豊かな文章を書くことができた。難しさを感じながらも、感想には「楽しい」「おもしろかった」「良かった」という肯定的感情が目立っていた。その理由として、看図作文・看図アプローチがもっている、ビジュアルテキスト読解の面白さ・多様なアイデアが生み出されることの面白さが関係していることが考えられる。また、協同学習を取り入れることによって、自分の発想や表現内容を広げることにつながっている。これらの体験は、発展的に考えれば、保育現場での業務の遂行(保育指導案・保育日誌等の作成や実践、同僚性を発揮して保育にあたる際の対応)にも役立つものと考えられる。

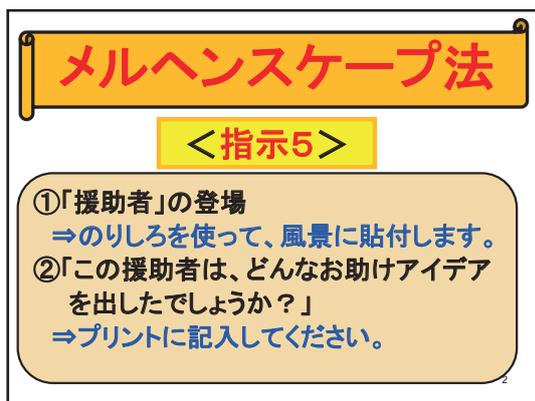
本研究は、保育者をめざす学生に対して、初年次教育の一環として行ったものである。筆者は、保育者をめざす学生への看図アプローチ実践を始めたばかりである。保育現場の業務や問題を取り上げたデジタルコンテンツの開発をすすめ、研究・実践を重ねていくことが今後の課題である。

スライドの改善

本論文中のスライド4とスライド5の内容に、看図作文・看図アプローチの授業にそぐわない指示をしている箇所があった。看図作文・看図アプローチの授業では、「よく見て」や「よく考えて」という指示は用いない。学習者が「よく見てしまう」「よく考えてしまう」ような「発問」を用いる。本文中では授業の流れの記述に正確を期すため、実際に授業で使用したスライドをそのまま掲載した。けれども、改訂したなげかけをすれば自ずと書くことへの苦手意識を取り除き、さらにワクワクした気持ちで見たり、文章を書くことができたはずである。反省の念も含め、今後の授業実践のために再構成したスライドを掲載する。



再構成版スライド4



再構成版スライド5

謝辞

本研究の実施に当たり、天使大学 教授 鹿内信善先生および日本医療大学 非常勤講師 石田ゆき先生には、今まで開発した看図作文・看図アプローチに関するコンテンツの活用、絵図等の使用のご許可、および温かでご親切なご指導を頂きました。特に、論文作成に関する丁寧なご指導は、感謝の念に堪えません。両先生のご配慮に、心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- Rogers.N (邦訳) 2000 『表現アートセラピーー創造性にかかわるプロセス』 誠信書房
- 三森ゆかり 2007 『論理的に考える力を引き出す2 絵本で育てる情報分析力』 一声社
- 鹿内信善 2003 『やる気をひきだす看図作文の授業ー創造的〔読み書き〕の理論と実践ー』 春風社
- 鹿内信善編著 2010a 『看図作文指導要領ー「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスンー』 溪水社
- 鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち ●看図作文レパートリー●』 ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2015 『改訂増補協同学習ツールのつくり方いかし方ー看図アプローチで育てる学びの力ー』 ナカニシヤ出版
- 鹿内信善 2018 「聴覚特別支援学校における看図アプローチを活用した授業づくり (I)ーF校に対する看図アプローチの紹介活動ー」 『福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学』 5 pp.1-7
- 鹿内信善・栗原裕一・渡辺聡・伊藤公紀・石田ゆき 2007a 「看図作文の授業開発 (I)ー心理的リアクタンスを作文の動機づけに活用する試みー」 『北海道教育大学紀要 (教育科学編)』 第57巻 第2号 pp.101-111
- 鹿内信善・渡辺聡・栗原裕一・伊藤公紀・石田ゆき 2007b 「看図作文の授業開発 (II)ー創造的看図作文を可能にする絵図の作成ー」

- 『北海道教育大学岩見沢校年報いわみざわ』
第28号 pp.9-20
鹿内信善・渡辺聡・栗原裕一・伊藤公紀・石田ゆき・菅原春紀 2007c 「看図作文の授業開発(Ⅲ)－「自己をふり返り、未来を探る」活動を促す絵図の作成－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第58巻 第1号 pp.265-278
- 鹿内信善・渡辺聡・栗原裕一・伊藤公紀・石田ゆき 2008a 「看図作文の授業開発(Ⅳ)－オリエンテーション変更作文に活用可能な絵図の作成－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第58巻 第2号 pp.147-157
- 鹿内信善・渡辺聡・石田ゆき・伊藤公紀・栗原裕一 2008b 「看図作文の授業開発(Ⅴ)－インプット・アウトプット法に活用する絵図の作成－」『北海道教育大学岩見沢校年報いわみざわ』第29号 pp.29-40
- 鹿内信善・兒玉重嘉・石田ゆき・渡辺聡・伊藤公紀 2008c 「看図作文の授業開発(Ⅵ)－「見通す力」を育てる試み－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第59巻 第1号 pp.209-224
- 鹿内信善・渡辺聡・石田ゆき・伊藤公紀・兒玉重嘉 2009a 「看図作文の授業開発(Ⅶ)－看図作文を活用した行事作文の授業モデル－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第59巻 第2号 pp.183-193
- 鹿内信善・兒玉重嘉・石田ゆき・渡辺聡・伊藤公紀 2009b 「看図作文の授業開発(Ⅷ)－キャラクター設定法のための絵図作成と授業モデル－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第59巻 第2号 pp.195-206
- 鹿内信善・石田ゆき・伊藤裕康・栗原裕一・真家恭子・石川清英 2009c 「看図作文の授業開発(Ⅹ)－メルヘンスケープ法の試み－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第60巻 第1号 pp.321-336
- 鹿内信善・渡辺聡・石田ゆき・伊藤公紀 2010b 「小学校低学年用看図作文の授業開発(Ⅰ)－クローズ法の検討－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第61巻 第1号 pp.167-180
- 鹿内信善・渡辺聡・伊藤公紀・石田ゆき 2010c 「小学校低学年用看図作文の授業開発(Ⅱ)－問答法の検討－」『北海道教育大学紀要(教育科学編)』第61巻 第1号 pp.181-195
- 杉江修治 2011 『協同学習入門 基本の理解と51の工夫』ナカニシヤ出版
- 山田礼子 2013 「中等教育と高等教育における教育接続の課題：新入生調査を参考に(1)」『日本教育制度学会教育制度学研究』20号 pp.118-125
- 渡辺 聡 2022 「看図アプローチを取り入れた保育士養成のための授業研究(Ⅰ)－『基礎演習』授業における書くことへの肯定的態度の育成－」『札幌大学女子短期大学部紀要』第70号(通巻第84号) (印刷中)

2022年2月23日受付

2022年3月16日受理